

平成28年度 第3回 COC 実施本部会議 議事録

平成28年7月27日(水)

13:34~14:32

場所:本部小会議室

出席者:清水学長、齋藤教育開発センター長、田浦学生部長、岡野研究開発推進センター長、西谷事務局長、木村企画部長、森地域連携推進担当課長、中井教務担当課長

【議題】

1. 第2回本事業取組み内容公表シンポジウムの準備状況について

齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

日時:平成28年9月4日(日) 午後1時30分開始、午後4時30分終了

場所:志摩市磯部生涯学習センター ※志摩市の共催を得ている。

圏内の高校生、大学生、圏域市町職員にお願いする。内容について、学長挨拶、COC概要の説明と伊勢志摩みらいづくり調査で圏域次世代アンケートの報告を行う。14時からシンポジウム、16時からパネル交流会である。

審議の結果、異議なく了解された。

2. 平成28年度「伊勢志摩共生学実習(地域インターンシップ)A~D」実施状況について

齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

春学期は、CとDが開講される。

受け入れに伴う関係書類として、「協定書」「誓約書」を各団体と締結する。Cは玉城町と、Dは島の旅社推進協議会と協定書を締結し、インターンシップに行く学生に誓約書を提出させる。特に、SNSについて不適切な内容、情報漏えいにならないよう指導していく。実習の終了後、学修成果評価アンケートを行う。

A(近藤准教授):伊勢志摩地域における自然環境資源を有効に活用しながら地域(集落スケール~伊勢志摩全域)の自然災害の特性を把握した上で、地域生活を対象とした自然景観に関して観光・防災・減災へ活用するためのプログラムについて実習を行う。秋学期に4日間程度、南伊勢町および伊勢市周辺に滞在しながら実習を行う。

B(千田准教授):6次産業化の実践事例として、水田での酒米作りと酒造り、マーケティングおよびブランド化のプロジェクトを行う。明和町。

C(池山助教):玉城町において自治体の課題解決に向けた取組を夏季休業中に4日間程度、現地に滞在しながら学修する。履修人数は、4名。

D[a](板井准教授):鳥羽市答志島において、海女小屋体験、浮島自然水族館など各種離島資源を有効に活用した「島の旅社」による、体験型交流プログラムの企画から運営までを夏季休業中に4日間程度、現地に滞在しながら学修する。履修人数は7名。

審議の結果、異議なく了解された。

3. 文部科学省統一指標FU(フォローアップ)アンケートについて

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

統一指標フォローアップアンケート報告

平成 27 年度のアンケート分について、アンケート質問項目が不十分であったため反映されていない。

資料の「COC事業アンケート調査結果」の項目2(参考)で、「皇學館大学が地域のための大学として実施する以下の授業科目等を受講したことがあるか」との問いで、本来全ての学生が受講しているのだが、平成 28 年度は「伊勢学」から「伊勢志摩共生学」へと名称を変更するため機械的に「伊勢学」を削除してしまい、アンケート内の該当授業科目名の表記が不十分であった。重要な指標になるためアンケートの取り直しを行う。9月20日(火)～27日(火)成績通知配付時に実施をしたい。対象は、全学部学科の2年生、3年生、4年生である。教務委員会を経て教授会で説明する。

審議の結果、異議なく了解された。

4. CLL 活動参加学生(学校行事参加者)、地域活動参加者追加

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

CLL活動の取組は8つ。

- ・伊勢河崎商家リノベーションPJ

- ・『きりり志摩びと紹介番組放送事業』プロジェクト

- ・玉城産豚ブランド化プロジェクト

- ・大紀町木のおもちゃプロジェクト

- ・まちづくり新聞編集プロジェクト

- ・次世代協働プロジェクト「TeamS³」

- ・宿田昔ロケットストーブプロジェクト

- ・大湊歴史・防災プロジェクト

学外活動は、下記2つ。

■COC+「三重の第一次産業(林業)体感ツアー」平成 28 年 8 月 24 日～8 月 26 日

■コンソみえ(本事業の実施主体:三重県戦略企画部)

「若者と地域の協創推進事業「多気町勢和地域でのゆずを使った商品づくり」

平成 28 年 8 月 20 日～平成 29 年 12 月

「伊勢志摩共生学実習D」は3年配当であるが、履修者以外の者も受講が可能である。3年生になった際、履修登録をすると単位が付与される。

■コンソみえ(本事業の実施主体:三重大学生物資源学部)

「海洋食文化実習(志摩編)」平成 28 年 10 月 26(水)～10 月 28 日(金)

審議の結果、異議なく了解された。

【報告】

1. 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)平成 28 年度評価について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

文部科学省から、COC+の事業の中でCOCの評価を受ける。面接評価であるヒアリングが8月下旬東京で行われる予定である。出席者は5名以内とあり、事業本部長である清水学長、事業推進担当者として齋藤教授、事務局から1～2名、そして、COC事業申請時同様、伊勢市の辻企画調整課長に依頼する予定である。

2. Media-DEPO 教材

清水学長の求めに応じ、木村企画部長より紹介がなされた。

反転学習の仕組みを利用し、COCの授業である「伊勢志摩定住自立圏共生学」の事前学修に役立てる。

* 次回日程

平成 28 年度 第 4 回COC実施本部会議は、平成 28 年 9 月 21 日(水)、本部大会議室で開催されることが確認された。